

学校  
法人 内丸学園  
盛岡幼稚園

園報

第 242 号  
(9月)  
2017

## 百十周年を迎えた幼稚園教育

盛岡幼稚園 理事長 坂本 洋

盛岡幼稚園は、1907年（明治40年）盛岡市に初めて設立された幼児教育施設です。当時キリスト教宣教師として赴任された、タツピングご夫妻のミセス・タツピング先生が初代園長として開設し、岩手県第一号幼稚園認可を受けました。

往時からのミセス・タツピング先生の教え、それぞれの個性を大切に、子ども自身が主体的にかかわる表現や労作活動を援助し、自然にのびのびと自ら学ぶことに喜びを感じる姿勢を育むこと、そしてその営みは家庭と協同との理念は、今に継承しております。

この世に生まれ育つ子どもは、どの子どもも多様な発達可能性を秘めております。その可能性を引き出

し、育成開花させるのが親の願いであり、子どもへのかかわり方や育児方針、情熱の源だと考えます。

どんな子に育って欲しいか。育てたいか。子育ての第一義的責任は、家庭保護者であるとされるゆえんです。

しかし、幼児期を迎えると親子だけのかかわりで育つことは十分でなく、集団の中で個と他者とのかわり体験が、人とかかわる力、自己中心性からの脱皮、社会自立に必要な体験と育ちが重要になります。

幼児は、ともかく自己発揮、自己中心性の活動が主流です。それを受容しつつ、次第に自己抑制力を身につけます。アクセルとブレーキ操作の体験です。その中で特に

気をつけなければならないことは、自己肯定感の育ちです。自分ほみんなから好かれ、家族から必要とされている肯定感情の育ちです。

その土台は、親子や教師とのアタッチメントの醸成、信頼感の育ちが重視されます。日本語で愛着心と言いますが、アタッチメントは、このところ再び見直されつつある乳幼児期の心の育ちの中で、母子を中心として身近な大人とのもつとも基本的な深い、「つながり」と指摘。甘えられ、心身共にくっついていての安全・安心感。日に何度も繰り返される愛着行動をいかに確実に安定して経験できるかが、生涯にわたる心の健康な発達の鍵と言われ、アタッチメントと心の発達の重要性に改めて共感します。

それは最近の研究による二重過程として説明されますが、感情の調節・立て直し・子どもの崩れた感情をなだめ、回復させる育ちの過程。もう一つは、感情の調律・映しだし・子どもの感情に寄り添い、映し出してあげる。心の理解能力、共感性、思いやりの育ちの根底になるとの指摘です。私どもは、もう一度アタッチメントの育

ち獲得を重視し、幼児期におけるアタッチメント、非認知能力の育ちを新たな改訂幼稚園教育要領の中で生かさなければなりません。

アタッチメントの醸成は、子どもの自発的、主体的遊びとして真の学びを支えるもので、生涯発達の基礎・土台として、その後の学校教育における認知能力の向上に相乗的にかかわるものです。

幼稚園創立百十周年を迎えた本年は、改めて幼稚園教育の大切さを認識し、原点に返り新制度の乳幼児の一貫した教育・保育のあり方を検証しつつ、子ども達の育ちの更なる飛躍、しっかりと力を育む環境整備にまい進する覚悟です。



ひとりてたつちができました・やったあ！

百十周年に思いを馳せて〜

## 子どもと共々

黒澤 淳子

今年百十周年を迎える盛岡幼稚園ですが、我が家の三姉妹がお世話になったのは、12〜18年前の7年間でした。今では社会人1年生から高3となりましたが、今でも親子で幼稚園の友達との交流が続いています。

誰でも年齢関係なく子どもができた時がお母さん1年生。幼稚園デビューもその通りでした。親子だけではうまくいかず悩んだ時も、登降園時の園庭で交わす会話の中で先輩ママのアドバイスをもらったり、たわいもない話で盛り上がりたり、あの時間は子育ての忙しさも忘れて和める楽しいひと時でした。勿論、当時はまだ保育部もなく家庭部（預かり保育）もそんなに多くなかった時代ですから、時間には余裕を持って子どもと向き合えた親は多かったのだと思います。そんな時代の話をちよっと。あの頃は親が園に関わることで

多かったと思います。母の会（現ふたばの会）では総会や定例の行事のために、隠れ家のようなホールの奥の部屋に集まり…というか、それを理由に集まっては子ども達の様子を見て大笑いしたり成長を喜んだり。バザーでは手作り作品を売るコーナーがあったのですが、準備期間中、次から次へとアイデアが浮かんで互いに先生になって手作り講習会の始まり。『緑の風』という園芸ボランティアのような会もあり、園での生活を無条件に楽しんでいたのをおぼえています。園からは遠足や遠出の際のお手伝いもあって、保育の現場に直接触れ合える場も多かったと思います。そんな体験を通して、自分の子どもだとなんでと思うようなことも、色んなハプニングが子どもらしく可愛く思えて、それぞれ違っていてと思えるきっかけになりました。園に関わることで、子どもだけで

なく親である私達も成長させてもらいました。懐かしい思い出です。当時、園長先生（現理事長先生）から「うちの園児はゲームやなんかが無くて、身近にあるもので遊ぶことができますよ。これは、なかなかできることではないです。」と話されたことがあります。子どもの意志を尊重して充分に遊ばせてくれたからなのでしょう。これは今にも通ずることで、指示を待つのではなく自分で道を拓いていく力を身につけられたのではないかと思えます。遊びの中には友達との関わりもあり、喧嘩したり助け合ったりしながら心も育ててもらいました。

子どもと遊んでばかりいるようにみえる私ですが、子育ての途中から仕事に完全復帰となりました。当然時間に追われる日々となるわけですが、私なりに心がけていたことがあります。忙しくても大人の都合だけで子どもを動かさないこと、型にはめて期待しすぎないこと、失敗したときは特にしっかりと話を聞いてあげることでした。自分をしっかり持った子どもたちなのでいろいろなきっかけがありましたが、失敗したときに隠さずごまかさずに話してくれる子に育ってくれました。親からはどんどん巣立つていくものですから失敗を報告することもなくなるのでしょうけれども、それが成長です。人の関わりを大事にして感謝の気持ちを忘れないことが身につけているのなら、まず安心して見守っていてあげようと思います。

そんな娘たちが現在どうなっているかと申しますと、幼稚園の時のまんま夢に向かってまっしぐら、今を楽しんでいます。まだまだ危なっかしいところがありますが、親としてそれもまた楽しんでみようと思う今日この頃です。



バザーに3人そろって参加

### 幼稚園の思い出

仁王小学校六年 菅原 歩未  
(第一〇四回卒)

創立百十周年おめでとうござい  
ます。私は第百四回卒業生です。  
ほとんど覚えていませんが、十年  
前「ちゅうりつぷ」と言う一番小  
さいクラスの時に百周年の式典で  
歌を歌ったそうです。

私は、幼稚園でかっていたうさ  
ぎと遊ぶことが好きでした。ホー  
ルで積み木をしたりおままごとを  
したり、外の大きな遊具で遊ぶこ  
とが好きでした。背の高い外国人  
の先生に教えてもらう英語も楽し  
かったです。

幼稚園を卒業してからもクリス  
マス会やバザーで他の小学校に  
行った友達と会うことができ、先  
生たちは幼稚園にいた時と同じよ  
うに声をかけてくれたことがとて  
もうれしかったです。

私は幼稚園の時に始めたピアノ  
を今も続けています。最近は難し  
い曲も少しずつひけるようになり  
ピアノが楽しくなってきました。  
何事もあきらめずにがんばること  
の大切さを学ぶことが出来たと思  
います。

今私は学校で、「学校児童会計

画委員会」という全校をひっぱっ  
ていく委員会に入っています。ど  
んな時でも全校のお手本を意識し  
ながら生活しています。特に挨拶  
をする時は、幼稚園のホールにも  
ある「いつもにこにこ」を意識し  
ながら挨拶を行なっています。将  
来は「いつもにこにこ」を忘れず  
に、人を幸せにする仕事になりたい  
と思っています。

これからも幼稚園のみなさんが  
「いつもにこにこ」でいきますよ  
うに…。

### Capitulum

盛岡市立城西中学校三年 大宮ちひろ  
(第一〇二回卒)

私が年長のとき、創立百周年の  
年でした。幼稚園時代での出来事  
全てをはっきりとは覚えていませ  
んが創立百周年式典のときにみん  
なで「線路はつづくよどこまでも」  
を歌ったことと式場の風景は今で  
も鮮明に覚えています。盛岡幼稚  
園の毎日の生活は歌にふれる機会  
が多くあり、今でも歌を歌うこと  
がだいすきです。

私は将来の夢に向かって中学生  
最後の年を楽しく過ごしています。  
私は、「幼稚園の先生になりたい」  
という夢を持っています。昨年、

盛岡幼稚園の職場体験に行かせて  
いただきました。そのとき、ぼん  
やりとしていた目標をはっきりと  
決めることができました。私に夢  
を与えてくださった盛岡幼稚園の  
先生方に感謝しています。

十五年間生きてきて、私にはた  
くさんの楽しい思い出があります。  
とても辛かった時期もありました。  
そんなとき盛岡幼稚園の園訓でも  
ある「いつもにこにこ」を思い出  
すこともありました。

百年の長い間、たくさん卒  
園生がいます。その中の一人で私  
はとても嬉しいです。今でも会い  
に行くといつも変わらない笑顔で  
迎えてくれる先生方がいる盛岡幼  
稚園はとてもホッとする場所です。  
私もそういう存在になりたいです。  
創立百十周年おめでとうござい  
ます。

私のだいすきな盛岡幼稚園がこ  
れからもずっとありますように…。



### 盛岡幼稚園の思い出

大澤 泰介  
(第七十六回卒)

Aクラスの景成(けいせい)orけ  
いちえい)の父です。私の祖父か  
ら4世代でお世話になっています。  
昭和53年生まれ私の時代の園舎  
は外からは内部が見えず、中庭の  
様に園庭が広がる空間でした。園  
舎の2階とつながった外の白い非  
常用滑り台で遊んだ事、隣のNT  
Tの紅白の電波塔を見ながら後ろ  
向きに歩くと塔が倒れてくるよう  
に錯覚し、面白がってやっていた  
事を思い出します(今は禁止?)。

私の実家は自営業で親は共働き  
でした。家庭部で「ルパン三世」  
を見ながら母親を待つ間、友達が  
一人また一人と帰って行き、少し  
ずつ暗く寂しくなっていくあの夕  
方の感覚は強く覚えています。今  
でも「ルパン三世」を好きなのは、  
あの寂しい夕方に心の抛り所だっ  
たからかもしれません。

当時の盛岡市営プール(今の杜  
陵小学校のあたり)に行った時の  
事も思い出深いです。雨の帰り道  
で冷え切った体の私たちを園で  
待っていたのはハヤシライス!温  
かくて美味しく、心と体に沁み

ました。あのハヤシライスに勝るハヤシライスは未だありません(チンじゃないですよね?)。

私もたまにお迎えに行くのですが、そんな時に幼稚園からの同級生や高校・大学時代の同級生と会って近況を話すのはとても楽しい時間です。迎えに来ないでもっと働けと言われてますが…。子ども達にも将来そんな日が来るのかも 싶れないと思うと、盛岡幼稚園から様々な貴重な御縁を頂いているものだなと感じます。

景成に残された幼稚園の日々に、数十年後まで彼の記憶に残る何かが数多くある事を願っています。



友だちと一緒に～技の連発!

子ども達の生活(行事)から

★第一〇回入園式(4月10日)

34名の子も達が元気に盛岡幼稚園の仲間入りをしました。年長児全員でお祝いの歌をプレゼントしました。

★親子遠足(5月19日)

当日は絶好の遠足日和でした。初めて遠足で盛岡動物公園を訪れ、お家の人や友だちと一緒に広い動物園を見て回りました。やぎに餌をあげたり、うさぎやひよこを抱っこしたり、楽しい一日を過ごしました。

★タッピングの畑(5月26日)

さつまいもの苗植えに三ツ割にある当園の畑へ年長児が植え付けに行きました。秋の焼き芋会が楽しみです。全園児でいただきます。

★花の日礼拝(9月8日)

ご家庭からお花を持ち寄り礼拝をしました。礼拝後、保育部は給食を作ってくれる職員に：幼稚園部はNTT・郵便局・内丸教会へそれぞれ感謝の気持ちを込めて、お花を届けました。

★ふたばまつり(7月1日)

創立百十周年の記念のふたばまつりとなりました。たくさん卒業生が幼稚園をなつかしく思い、遊びに来てくれました。

子ども達の作品展では「夏」をテーマにどの学年も取り組みました。又、創立百十周年のお祝いに親子で作った作品も展示しました。実行委員の皆様・保護者の皆様ご協力ありがとうございました。

★お泊り会(7月15、16日)  
年長児29名がドキドキワクワクした「お泊り会」。友だちと一緒に協力しあいながら過ごしました。お楽しみ会では「だんごむし」の家族が遊びに来てくれ、ゲームと一緒に楽しんだり花火を見たり：夏の夜を楽しみました。

★運動会(9月16日)

秋晴れの天気のもと、運動会が行われました。運動会に先立ち園児全員で創立百十周年のお祝いのバルーンリリースが行われ、色とりどりの風船が空に舞い上がりました。園児一人ひとりの胸の中にしっかりと思い出として残ることでしょう。

編集後記

夏空から秋の空へと移り変わり今年度もあつという間に季節は秋を迎えています。門の側にある「コナラの木」がぐんぐん成長し今年にはたくさんのだんぐりがなり「だんぐり拾い」を楽しむ毎日です。ダンゴムシをたくさん見つけられる穴場や、アリの住み家、クローバー探し、お花の種とり等、限られたスペースの中でも自然を身近に感じながら子ども達は元気にのびのびと生活しています。

先日、全園児で集合写真を無事に取り終え、この写真は記念誌の表紙になります。今年は創立百十周年の記念の年となり、記念式典、祝賀会が来月行われます。未来ある子ども達が夢に向かって自分の道を一歩一歩進んでいけるよう教職員一同これからも見守っていきたくと思います。

学校法人 内丸学園  
幼保連携型認定こども園  
盛岡幼稚園  
〒020-0021  
盛岡市中央通一六―四七  
TEL 六二二―二三〇一  
理事長 坂本 洋